

パートナー香澄

2007年04月30日発行

発行元：パートナー香澄編集委員



パートナー香澄の発行について

「パートナー香澄」の発行に当たり、その主旨について述べてみたいと思います。霞ヶ浦環境科学センターにおけるパートナー活動も今年で3年目を迎えます。これまでを振り返ると、試行錯誤はありましたがそれぞれの活動の基礎固めもでき、手探り状態から少しずつではありますが、活動を形で現せるようになってきました。

そこで、平成19年度はパートナーの更なる活動の充実とセンターの“理念”でもあります「人と自然の共生する環境の保全・創造への取組」をグループの垣根を越えた「横断的活動と情報の共有化」で積極的に推進していきたいと思っています。

このような主旨からツールの一つとして「パートナー香澄」の名称で定期的に活動情報を発信していきたいと考えています。

ちなみに、名前の由来は「常陸風土記 行方郡の条」に記載された美しい水と緑の霞ヶ浦から引用しました。
(編集代表：尾形)

この2年間を振り返って

初のボランティア体験

退職後、プツリと社会との接点が切れてしまうことを恐れ、ボランティアでもやろうと考えていました。そこで最初に参加したのがプロゴルフトーナメントのボランティアでした。2回ほど参加してみましたがこれは私にとっては遊びの感が強く、ボランティアの意味する「社会事業などへの参加」としての実感がありませんでした。

次に出会ったのがこの科学センターでのボランティアです。ここでの活動は、科学センターが目指す理念・機能と直結したものであり、これが私の考えていたボランティアで初体験となりました。

素晴らしい環境で色々な活動が、そして今までとは違った人たちとの交流もでき大変意義のある楽しい2年間の活動であったと考えます。そして当初望んでいた社会との接点も実感できました。また活動がマイペースで出来るのが魅力です。今後も気楽にこの活動に参加していきたいと考えております。
(大島)

パートナー活動を振り返って

パートナーになり、記録と図書グループで活動して早いもので2年が過ぎてしまった。記録グループの役割は、外で行われる野外講座、自然観察会、探検隊等の活動状況を写真撮影や文書として記録することであった。この活動でボランティアの役割をどれだけ果たしたか私には分らないが、自分自身としては、自然や環境を身近な問題として捉えられるようになったし、また、多くの知識・知見を得て、いろいろ体験することもでき大変楽しい意義のある活動であったと思っている。

図書グループの方は、センター内の活動で、当初は本の清掃、書棚の整理整頓、図書の修復や製本作業の研修等が行われた。活動の中心は環境関係の新聞記事をスクラップ化し、パソコンで検索できるように記事の見出しや新聞名・日付等を入力する作業であった。どれも大変地味な活動のなかでメンバーと一緒に頑張って仕上げたスクラップブックが今後多くの人たちに活用されればと強く願っている。利用されてこそはじめてパートナーとしてこの上ない喜びを感じる。

今は少しマンネリ化した自分を再度スイッチオンし、新たな気持ちで進化していきたい。
(平江)

自然オンチの探検隊

この2年間、記録広報グループとして十数回のイベントに参加してきました。特に巴川探検隊での「オオヒシクイ」と桜川探検隊の「桜川の魚」は強く印象に残っています。自然オンチの私は鳥や魚に関する知識はまったくありません。オオヒシクイが渡り鳥の名前であることも知らなかったし、自宅から数キロのところを流れる桜川も農業用のどぶ川と思っていたくらいで、たくさんの魚が息していることなど想定外のことでした。

この歳(まもなく62)になって初めて“自然”を意識するようになったのは、こうしたイベントへの参加のお陰と思っています。今、“環境”は地球的規模の問題といわれています。何でこんなことになってしまったのか、を思うとき自然を知り体験することの大切さに行き着くように思います。探検隊の責務は重い。一経験者の率直な感想です。
(稲葉)

水のはなし (展示解説活動から)

今回は、私たちの命の源である水についてお話しします。まず、私たちにとって欠くことのできない「水」ってどうしてできるか考えてみましょう。分かり易く説明すると、地表や海の水が太陽の熱により水蒸気となって上昇し冷やされて雲になります。

雲は小さな氷の粒でできています。この氷の粒が集まって重くなって落ちてきます。そして、落ちる途中で溶けて雨になるのです。雨は、地表・海・森にそそぎます。そして地下水となったり、森に貯えられたりして少しずつしみ出して小川にそそぎ、それらが集まり大きな川となり海へと流れていきます。このように、水はさまざまに形を変えて地球上を循環しているのです。

今、私たちの地元にある日本で二番目に大きな湖(220km²)の霞ヶ浦は一番深いところでも7m、平均すると4mしかありません。ちなみに一番大きな湖(670km²)の琵琶湖は最大深さ100m、平均でも40mもあります。また、猪苗代湖の大きさは103km²、最大深さ104m、平均で52mです。このように大きくて水深の浅い湖が霞ヶ浦の特徴であり、そのため非常に汚れやすい湖なのです。

さて、水といえば飲み水ですが、私たちが飲んでるのがこの霞ヶ浦を水源にした水道水なのです。昭和40年代の霞ヶ浦は水性植物として、ヨシ・マコモ・ヒメマゴヤヒシ・アサザ、藻類が湖岸に群生し、多くの魚や鳥類の営巣、餌場、隠れ場を提供する豊かな環境でした。また、水もきれいで十数ヶ所の湖水浴場は、夏ともなれば大賑わいをみせ、帆引き船によるワカサギ漁も盛況で、生き物すべてが霞ヶ浦という自然の恩恵を受けていました。しかし残念ながら現在の霞ヶ浦は水質汚濁が進み、泳げるような状況ではありません。また、護岸工事やライフスタイルの変化等の影響もあり湖岸の水性植物や魚、鳥の数、種類も減少し、昔ながらの貴重な自然が失われつつあるのが現状です。

今私たちはかつてのきれいな湖を取り戻すために何をすべきでしょうか。現在、きれいな霞ヶ浦を取り戻すために約160のグループが活動を展開しております。また、市民・行政・研究者・企業が連携しながら霞ヶ浦の水質浄化に取り組むシステムも構築されておりますが、なかなかきれいになりません。

沼などの汚れを現す指標であるCOD(科学的酸素要求量)の値(大きい程水の中に有機物が多く含まれている)も昭和40年代の3~4mg/Lから程遠い7~8mg/Lで推移しています(霞ヶ浦での国の基準は3mg/L)。あらためて私たちの毎日の生活を振り返る中で、何気なく行っている生活排水の処理を考えてみましょう。煮汁、味噌汁、油分など台所での処理はどうでしょう。そのまま排水溝に流していませんか。牛乳1本を流した場合、魚が住める環境にするには風呂桶何杯分のきれいな水が必要なのはご存知ですか。

飲み水の水源である霞ヶ浦の水を浄化することは、私達だけでなく末代の子孫にまでこの大切な自然を残すことになるのです。決して消滅させてはいけません。そのためには今、私たちがしなければならない事はこれらを素直に自覚し実践することです。つまり、ひとり、一人がどんな些細なことでも自分でできることを、一つずつ確実に実行していくことが大切なのです。(尾形)

自然観察グループ「植物班」の活動について

このグループは安昌美先生のご指導のもと、霞ヶ浦の流域に生息する「植物(野草、樹木等)」を対象にしたセンターの霞ヶ浦環境学習推進事業の一つである「野外講座」における運営・協力(説明補助、資料計測・収集、参加者の安全対策など)と自主企画である湖岸植物「定点調査」を行っています。「野外調査」は、公募で集まった一般参加者を対象に、センター周辺の湖岸や流域市町村の公園など各種施設を訪ねて、植物の特色や生育状況、花・果実の特徴などを学ぶ他あわせて霞ヶ浦と関連した歴史や地理、植生について学習するもので平成17年度は土浦市の「霞ヶ浦総合公園」などで12回実施され、各回3~5のパートナーが分担して参画した他、パートナー研修として那珂市の県営植物園で現地見学が行われた。平成18年度は「鹿島神宮の森」などで10回実施されたほか新たに湖岸植物の「定点調査」を各月1回(うち6回は野外講座に併せた公開講座で、6回はパートナー主体の自主調査)行った。



「定点調査」は、土浦市田村町から沖宿町にかけてのセンター南前方の湖岸約3.1km区間で実施した。堤防湖側の横断方向にのり面(法面)、前小段平坦地(平地)、その先の低湿地および水中(低地)堤防沿いに9区間(A~I)に区分して、季節(春、夏、秋、冬)毎に調査した。

調査内容は(1)フロー(植物性)調査:季節毎に植物和名、生育段階状況の観察記録、標本採取作業。(2)植物生活調査:ヨシ、シロネ、水性植物等の成長の観察記録。(3)植生調査:群落組成状況の観察記録。で(1)を主体に観察、記録、写真撮影の作業を分担して現地調査し、記録用紙に記載、写真は撮影日・撮影者に区分して保存した。これらの調査資料をもとにパソコンにより季節、区間、横断位置毎に「植物種リスト」を作成の上、撮影した植物について写真取込、コメント記入による

「図鑑」の作成に向けて調査結果のとりまとめを行っている。

平成19年度は「野外調査」と「定点調査」は調査日を分離して実施する予定である。(有吉)

魚類の観察会と定点観測

霞ヶ浦環境科学センター主催で一般の方々が参加できる自然観察会が開催されています。霞ヶ浦の魚類については2ヶ月に一度、センターの石川囑託の指導で行われており、パートナーはアシスタントとして数名ずつ参加しています。2月には「ワカサギの人工採卵観察会」が行われ貴重な体験ができました。また毎回のように参加される小学生たち魚博士もおり、交流体験を通してパートナー自身も新たな発見・勉強になっております。

またこれと並行してセンター下の沖宿など4地点での定点観測を毎月実施しています。各地点での水温やPH測定などの水質調査と投網による魚の捕獲調査、釣り人に対するアンケート調査を行い、季節によってどんな魚が見られるかなどの調査とりまとめのお手伝いをしております。データを多く集めるために19年度も継続し、更に充実していくことを望みます。(安川)

ちょっと難しい話

科学と技術の関係

皆さん当センターの名称に使われている「科学と技術」の違い、ご存知でしたか。もともと当センターの名称に「科学」の字を入れたのは、ゴミ処理施設等と間違われなためだったと伺ったことがあります。

ひとことでいえば、科学は森羅万象を司る真理を探究することであり、技術は日常に密着した創意工夫のそのものであります。例えば猿が木に実った果実を落とすために、石を投げたとしたら、それこそ大変な技術を発明したことになります。この場合、なぜ果実が落ちるかを探求することが科学で、石を投下ることが技術です。

これを霞ヶ浦に当てはめてみますと、霞ヶ浦の水の汚れの原因を探求するのが科学で、汚れを除去する手法を考え出すのが技術ということになりましょうか。

科学、すなわち真理の探究は、日常生活に何の役にも立たないと言ってしまえば、その通りかもしれません。しかし、真理がわかっていないければ、新しい技術を生み出すことはできません。

私たちパートナーは霞ヶ浦に関する化学の成果を生かして、豊かな霞ヶ浦流域社会を実現するための縁の下の力持ちかもしれません。
(浅野)

私は健康のためにジョギングすることにしていました。以前腰痛になった時に運動はもろろん、イスに座っていても、とても痛くて、一度座って次に立ち上がった時も直ぐに腰が真つ直ぐにならずしばらくたつてから歩くという状態だった。

一年後、ある程度治つてから歩き始めました。これがだんだんエスカレートして一ヶ月に百キロメートル歩くことを目標にしたがなかなか達成できなかった。確か六年前だと思いが今日四、五キロメートル歩けば百キロメートルになる。うきうきしながら歩いているとなんか雲行きが怪しくなつてきて家に着く二百メートルくらいまで来た時にいっきに降りだしてずぶぬれになつたが、ついに歩き通し合計百キロメートルを達成したのだった。

この時の達成感とビールの味は忘れられない。霞ヶ浦を見ながらジョギングするのは最高である。
(栗原)



投稿のお願い

「パートナー香澄」の原稿を募集しています。特にテーマは設けません。パートナーご自身のプロフィールとセンターでの活動体験記や身の回りの話題など何でも結構です。写真の添付も可です。ただし、出来るだけ多くの方の投稿を掲載したいので字数は300~400字でお願いします。

次号は7月末発行予定で、原稿締め切りは6月20日です。

パートナー室のパートナー香澄メールボックスにお入れください。

編集委員

尾形 孝彦
浅野 明宏
有吉 潔
大島 寿夫
栗原 知彦
平江 俊之
安川 敏行
稲葉 寛

こどもの日 遊ぼう 学ぼう かすみがうら!

か ん き ょ う

こども環境 フェスティバル2007



日時:平成**19**年**5**月**5**日(土・祝)

9:30~15:00

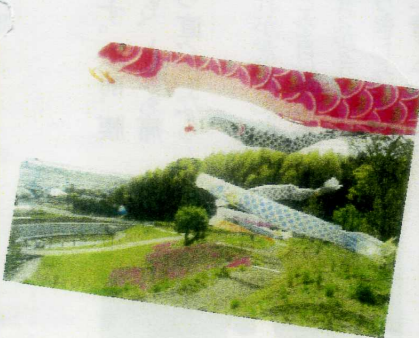
※小雨決行

入場
無料



会場:茨城県霞ヶ浦環境科学センター

(茨城県土浦市沖宿町)



【広場】

- ・竹とんぼ教室
- ・投網教室
- ・ドジョウつかみ
- ・外来魚の試食会
- ・縁日(綿あめ、水ヨーヨー)
- ・新鮮野菜の販売
- ・飲食コーナー(ツェッペリンカレー、お好み焼き・四季のおこわ、野菜アイス
龍ヶ崎まいんコロッケ)

【ステージ】

- ・金管アンサンブルコンサート(Y.T.B.E)
- ・マジック大使USA スティーブ・マーシャル ショー

【館内】

- ・研究室の一般公開
- ・アクリルタワシ教室
- ・ペーパークラフト教室
- ・マイバッグ教室
- ・押し花教室
- ・クイズラリー(プレゼントがあるよ!) などなど

【同時開催】霞ヶ浦こどもシンポジウム

これからの水質浄化活動を担うこともたちが、霞ヶ浦について調べたことの研究発表や、未来の霞ヶ浦などについての意見交換会を行います。

◎土浦駅から無料送迎バスを運行します。

土浦駅東口発センター行き(所要時間約20分)

9:10 9:40 10:10 10:40 11:10

11:40 12:10 12:40 13:10

センター発土浦駅東口行き(所要時間約20分)

11:10 11:40 12:10 12:40 13:30

14:00 14:30 15:00 15:20

ゴールデンウィークお楽しみ企画!

4/28(土)~30(月)、5/3(木)~4(金)、
6(日)は、クイズラリーを開催するよ!参加
者には、びゃあちゃんストラップをフレス
ント!(各日先着50名様まで)



茨城県霞ヶ浦環境科学センター

〒300-0023 土浦市沖宿町1853番地

TEL 029-828-0961(企画・交流課)

<http://www.kasumigaura.pref.ibaraki.jp/>